

ジブリアニメによる環境教育の試み

十津守宏*1・田中雅章*1・大森 晃*2

Email: todum@suzuka-jc.ac.jp

*1: 鈴鹿短期大学

*2: 東京理科大学

◎Key Words 共生, 自然, アニミズム

1. はじめに

大学の教養科目は、高校時代の授業よりも高度な内容になることがある。新入生にとって難解で理解しがたい内容の科目は避けようとする傾向がある。一般的に難解といわれる環境教育をゆとり世代でも理解しやすいようにと、アニメを教材として採用した。このアニメは1997年に公開された、宮崎駿によるスタジオジブリの長編アニメーション映画作品である。このアニメでは人間と自然との共生や人権問題が描かれており、大人の鑑賞に堪えられる内容となっている。

このアニメの内容を学生がどの程度理解しているのかを測定するには、ミニアンケートや大福帳などの教育ツールの利用があげられる。しかし、実運用の手間や教員の負担を考慮するなら、Web ベースの教育支援サーバーを実装することが望ましい。ところが、サーバーを運用するにはそれなりの技術と費用を必要とする。それが支援システムの導入の障壁となっていた。

本稿では導入までの容易性と汎用性から、Google から無償で提供されているドキュメントのフォーム機能が、アンケートの入力に利用可能であることに着目した。このフォーム機能を利用して、授業内容の理解度を測定することを試みた。さらに指導者のパソコンから、スプレッドシートを開いた状態でもアンケートを受付ことができる。さらに、学生の入力状況がモニタリング可能でもある。これにより、入力データの勘違いなど、入力ミスをすぐに発見・修正することができる。その場で即時に修正できることは、収集データの精度を上げることが可能である。本稿では、環境倫理教育で運用した結果を報告する。

2. ジブリ作品は環境倫理教材になりえるのか

スタジオジブリの作品には、人間と自然との共生をテーマとした、映画版『風の谷のナウシカ』と『もののけ姫』は宮崎駿の代表作と言っても良いであろう。1980年代に発表された映画版『風の谷のナウシカ』では、ナウシカを中心として人間と自然との共生の可能性を肯定的に示している。

ところが、十数年後に発表された映画版『もののけ姫』では人間と自然との共生の可能性について否定的な見解を示している。この宮崎作品の思想的変遷は、これまでの環境倫理の限界を示唆するのである。それと同時にこれからの新しい環境倫理を示唆するものでもある。

大学で使う教材としては、簡単に結論づけをするのは好ましいことではない。学生に問題定義を示し、問題の内容を理解した上で回答を考えさせる方が好ましい。筆者はこれまでにあった教員の意見や考え方を押し付けるような一方的な授業は好ましくないと考える。問題定義を示すことで、教員と学生、双方向の意見の交換が行われるからである。環境教育の教材としてこのことを期待して採用した。

3. 環境教育のカリキュラム

開設科目の「人間生活と環境」では、人間と自然との共生をテーマとしている。採用した教材は、映画版『風の谷のナウシカ』と『もののけ姫』、劇画版『風の谷のナウシカ』の3つを採用した。劇画版は事前の予習としてあらかじめ自宅で読んでおくようにと指示をした。映画版は講義中に全編の視聴を行う。その後その時代背景を補足解説することで、作品の内容理解をより深めるように勤めた。

講義の流れとしては、大きく三つに分けられる。一つ目は映画版『風の谷のナウシカ』を視聴する。次にその時代背景や作者の意図を解説した。二つ目は劇画版『風の谷のナウシカ』の重要なポイントに着目して、登場人物の考え方を解説し、さらなる理解を深めた。三つ目は映画版『もののけ姫』の視聴とその時代背景や作者の意図の解説である。

週	内 容
1	ガイダンス
2	映画版『風の谷のナウシカ』
3	映画版『風の谷のナウシカ』
4	劇画版『風の谷のナウシカ』
5	劇画版『風の谷のナウシカ』
6	劇画版『風の谷のナウシカ』
7	劇画版『風の谷のナウシカ』
8	映画版『もののけ姫』
9	映画版『もののけ姫』
10	映画版『もののけ姫』
11	宮崎作品における環境倫理のパラダイム
12	宮崎作品における環境倫理のパラダイム
13	映画版『となりのトトロ』
14	まとめ
15	まとめ
16	定期試験

表1. 授業計画

4. 効果の測定と分析

本研究の調査対象は教員養成系を目指すコースに在学する1年生で、「人間生活と環境」を受講する受講生である。調査はGoogleのWebサービスを利用してフォームを作成した。受講生が直接ブラウザからの入力することによって、直接データの収集を行った。調査時期は定期試験前のまとめの週の2011年7月に行った。調査票の質問項目の概要は次の三つである。

- (1)ジブリ作品を環境教材としての評価項目
- (2)環境問題に対する考え方の変化項目
- (3)環境問題に対する行動の変化項目

そのうち、回答を選択する質問が17項目、自由記述が3項目である。

収集したアンケート結果は入力ミスや漏れ、関連項目の矛盾がないかを目視による点検とExcelの計算式とで行った。その結果、分析対象となった有効回答は58件である。アンケート対象データの集計および統計分析には、Excel2010を用いた。

本稿では、宮崎駿のジブリ作品が、環境問題の教材として、学生がどのように評価しているのかを明らかにするための結果が表2.である。その質問内容は、「宮崎駿のジブリ作品を教材に用いたことは、この講義のテーマである環境問題を考えるきっかけとして有効だと思いますか」である。

表2のように、環境問題を考えるきっかけとして有効であると回答しているのは58名中49名で、80%以上である。その結果、『風の谷のナウシカ』や『もののけ姫』などのジブリ作品は環境問題を考えるきっかけに充分値すると評価した。受講生のほとんどは、宮崎作品を一度は見たことがある世代である。ちいさい時から親しみのあるアニメを新たな視点で見ることによって、以前までの見方を変えることによって新たな考えのきっかけになったことが、このような結果になったと考える。

質問項目	回答	比率
とても有効だった	19	32.8%
有効だった	30	51.7%
少し有効だった	7	12.1%
あまり有効でなかった	1	1.7%
ほとんど有効でなかった		0.0%
全く有効でなかった		0.0%
無回答	1	1.7%

表2. 宮崎作品を環境教材としての評価

次に、環境問題を学習した結果、それが日常の行動に結びついているのかどうかを質問したのが次の項目である。「入学するまで、不要な照明やエアコンを消すことをしていましたか」と「この講義を受講してから、不要な照明やエアコンを消すようにしていますか」とを比較したのが、表3. 節電行動の変化である。

表3.の結果をみると、これまで不要な照明やエアコンに対して無頓着だったことがうかがえる。それまでは、不要な電気は消すという行動にはならなかったのだろう。授業の結果によって、節電意識がかなり改

善された。更に、不要な照明やエアコンを消す行動に改善が見られた。環境問題を身近に考え、実際の行動となって現れているのが、明らかである。

講義中ではあまり大きく取り上げなかったが、ジブリ作品の中では、人間を平等に扱う姿勢や弱者を救済することについても表現されている。

質問項目	前	後
常にしている	19.0%	29.3%
よくしている	29.3%	39.7%
少ししている	39.7%	27.6%
あまりしていない	8.6%	
ほとんどしていない		1.7%
全くしていない	3.4%	1.7%

表3. 節電行動の変化

5. おわりに

今回のWebアンケートを実施して、以下の事が明らかになった。ジブリのアニメ作品を教材として用いた結果、学生が環境倫理に対する「学び」の内発的動機付けを促す意味において有用であると評価したい。またその動機付けを通して、学生自身の意識改革や実生活におけるライフスタイルを見つめ直すことにも影響を及ぼしたと、考える。

その要因としては、今日におけるメディア社会で養われてきた学生のメンタリティに対して映像媒体の視覚的イメージが大きな影響を及ぼしうることになる。また環境倫理という意味において形而上学的な学問に対する思索的アプローチは、身近なアニメ作品を教材として用いることによりその学習の契機となりえた。さらに倫理をアニメによる可視化の実現によって、受講生が理解できたことがあげられる。

最後に前述した結論は、アンケートの自由記述欄における多数の記述からもうかがい知ることができた。ジブリ作品は環境問題を考える教材として、ゆとり世代に有効な教材と評価したい。

参考文献

- (1) 十津守宏：“宮崎駿作品『風の谷のナウシカ』を通して：環境倫理の今日のあり方についての一考察”，鈴鹿短期大学紀要，27，pp.21-27（2007）。
- (2) 堀郁：“私たちは自然と共生できるのか？：『もののけ姫』の哲学的考察”，総合政策研究，28，pp.99-107（2008）。
- (3) 福沢健：“『もののけ姫』の神話的意味”，中村学園大学流通科学研究，6，2，pp.64-54（2007）。
- (4) 福沢健：“共生のはじまり：『もののけ姫』の神話的意味(補遺)”，中村学園大学流通科学研究，7，2，pp.148-143（2008）。